

## 外科医が切らなくなるように

独立行政法人国立病院機構東京医療センター

副院長

木下 貴之

私は、30年ほど前に大学医学部を卒業後、外科医として修行を積む傍ら、癌遺伝子の研究に関わり、うち3年間は米国にて、発生に関わる遺伝子制御の研究に専念させていただきました。今日ではゲノム医療全盛の時代に突入しましたので、時代の潮流に乗る機会もあったのですが、これらの研究は私の研究業績にはなりませんが、世の中のお役には立っていないのは残念です。このように私は基礎研究者の才能はありませんので、日々多くの患者さんを診る経験から、ベッドサイドの問題点をベッドサイドにて解決する臨床研究を行って参りました。私が専門にしている乳癌は、近年のマンモグラフィ検診受診率の向上と画像診断法の進歩により、早期乳癌の数は年々増加しています。今日では女性12人に1人が乳癌に罹患すると言われていています。その治療法は、乳房温存療法やセンチネルリンパ節生検の標準化に見られるように、特に外科治療においては低侵襲化が進んでおりますが同時に、手術後も高い整容性が患者さんより要求されています。また、薬物療法や放射線治療の進歩により治療成績や生存率も向上してきていますが、一方で長期に慢性化し共生する病気になっています。早期乳癌は治る可能性が高い病気ですが、さらに高い治癒率を目指して高額な新規薬物が適応とされ、また10年以上経過しても再発することがあるという理由で、薬物療法は長期化し医療費の増加に繋がっています。これらに加え、乳癌患者は30-50歳代と社会や家庭に大きな影響を与える比較的若い年齢で発症することが多いため、罹患数の増加と共に大きな社会的な問題になっています。

私は、10年以上前から同じ慢性悪性疾患である肝

臓癌治療に適応があるラジオ波熱焼灼療法（RFA）を早期乳癌治療に適応拡大する研究に専念しております。RFA以外にも凍結療法や集束超音波療法、重粒子線療法などが乳癌の非切除療法として試行されてきています。

これらの治療法の利点は手術と比較して、比較的短時間で簡便に治療が完結するのと、切除を伴わないため乳房の整容性だと考えられております。医療費に関しては各々が異なりますが、その中ではRFAは飛び抜けて安価です。一方で乳房にメスを入れる事を躊躇して治療の開始が遅れる患者も少なくないため、これら非切除治療の普及による効果が期待されます。

紀元前3000年古代エジプト医学パピルスあるいは江戸時代の華岡青洲先生の頃から乳癌は岩と言われ、切って治す病気でしたが、21世紀にはRFAなどで切らずに治る時代になると信じております。私のこれまでの研究結果では、RFAの特徴は短時間、低コストにて簡便に治療を完結できることです。治療後の整容性も高いため患者さんの満足度も高く、増え続ける早期乳癌患者さんの治療を短時間で安い医療費で完結し、早期社会復帰を実現することの意義は高いと考えます。これがきっかけとなり非切除治療という大きなマーケットが開発され、世界中で更に優れた医療機器開発がなされることを期待しています。

人類は宇宙へ向かい、一方地上では多くの人を殺戮することが可能な先端技術が開発されていますが、これらの人類を殺戮するための技術が人を治すために応用され、多くの患者さんを切らずに簡単に治す時代を迎えたいと考えております。